

Hyogo

マンデー経済



ウィル

4

目指す会社像

社員の人生を輝かせる

リーマン・ショックで倒産寸前の状況だった不動産のウィル(宝塚市)は、社員一丸の頑張りで何とか危機を乗り越えた。2011年には業績も回復。それを待って、取締役の友野泉さん(49)は元同僚と結婚した。

母のために、結婚式はしたいと思っていました。それに披露宴では、経営危機を乗り越えたウィルの人たちと「よく頑張ったね」とねぎらい合いたかったのです。ドレスや結婚式のプランは正直、どうでもよかったです。早く決めたいので、どれにすると聞かれたら、「これ」と指さすだけでした。自分がこだわる部分と、どうしてもいいことの区別がはっきりしているんです。

もともと40歳までは子どもを産まないつもりでした。がっつり仕事をして、毎晩飲みに行く。居酒屋で、部下と夜中までしゃべっていました。夫がご飯を食べに来ることもありましたが、深夜までお

店にいて迷惑がかかるし、部下にも気を使わせてかわいそうだから「家で飲んだら」と言っていました。それは実現しませんでした。

43歳で1人目、47歳で2人目を出産した。

1人目の時は3日後、2人目は5日後から仕事を再開しました。自費で少し長めに入院させてもらい、その後は産後ケア施設に入って、子どもを預かってもらっている間にオンライン会議などをしていました。育児休業制度はありますが、役員なので在宅で仕事をしました。

夫はウィルを退職後、福祉関係で起業した経営者です。子育てや家事を協力したいと思っているようですが、現実的にはなかなか難しく、子育ては私が担っています。

子育てをしながら、役員として職責を

果たすことに腐心する。

子どもはまだ小さいので熱を出すことがよくあります。どうしても対面で出たい会議がある時は、その間だけ会場の近くで夫が子どもの面倒を見ます。終わればすぐにバトンタッチするんです。

役員会では司会を担っています。前日、子どもに熱が出そうだなと思ったら、徹夜しても会議の進行シナリオを全て書き上げます。別の人が書面を読みさえすれば、会議が進むようにするためです。実は株主総会の日にも熱を出しちゃって。朝のリハーサルでは、司会者の横に子どもを座らせていました。本番は夫が別の部屋で面倒を見てくれました。

14年から5年間、ともに代表取締役として経営を担った坂根勝幸氏が昨年7

月、会長に就いた。

創業者が50歳で辞め、坂根も50歳で会長になりました。この会社は若くありたいという精神があり、老害にはなりたくない。もともと48歳で辞めるつもりだったのですが…。部下には52歳で引退すると宣言しています。

とは言うものの、私がいることで社員の思いが形になる面はあります。例えば、うちは就業時間が午後7時までなので、時短勤務制度を使っても5時まで勤務する必要があります。私もそうです。子どもが小学生になると早く帰ってきますよね。ママさんの勤務時間はもっと前倒してもいいのではないかと考えています。

私が代表取締役を務めたという珍しい立ち位置だから、「女性」という点が強調されがちです。でも、目を向けている

のは女性社員だけではありません。頑張りたいと思っている人は誰でも力を発揮できる環境をつくりたいのです。

会社の「役割」についても明快だ。

社員には、この会社を使って人生を面白くしてほしい。もう20年近く、部下と交換ノートを交わしています。それは社員の人生に踏み込みたいからです。「どう生きたいのか」「何を考えているのか」と。以前は1人に毎日、5分ほど書くこともありました。今はオンラインに移行し、5人とやりとりしています。

すばらしい能力や感性を持っているのに、「社会に出たら自分を型にはめて生きなければ」なんて思い込んでいる子どもいます。ウィルに出会ったことで、人生を輝かせることができる。そんな会社を目指しています。

(聞き手・塩津あかね)

◇4月以降は平日の地域経済面に掲載します。

マイストーリー

～経営者は語る

友野 泉 (49)

＝元代表取締役、現取締役

ウィルの社屋を背にする友野泉さん。社員の人生を輝かせる会社」と話す。宝塚市逆瀬川1 (撮影・丸山桃奈)



2人の子育てに奮闘する友野泉さん(本人提供)



何人もの部下と毎日交わしていた交換ノート。今も大切にしまっている＝宝塚市逆瀬川1 (撮影・丸山桃奈)